

# 中学校英語科「主体的に学習に取り組む態度」の見取りと評価

## —パフォーマンス課題を核にした「振り返り」の実践から—

増見 敦

### 1. はじめに

高等学校では昨年度(2022年度)より新学習指導要領が実施され、観点別学習状況の評価(観点別評価)が導入されました。大学入試改革、新科目「論理・表現」、そしてコロナ等々の対応に加え、慣れない観点別評価の実施に、「もう勘弁して!」という思いが募る先生も多いのではないのでしょうか。

現在、私は勤務校の中等教育学校で、中学担当3年目を迎えます。中学を担当する前の28年間は(前任の高校勤務を含め)ずっと高校を担当していました。観点別評価は小・中学校で既に導入されて久しいものですが、私が初めて中学を担当することが決まった際、「カンテンベツの世界」に入ること大きな不安を覚えました。しかしその後、3観点評価の取り組みで試行錯誤を繰り返す中、自身の授業実践を整理し、授業者として生徒を見る(理解する)ための新たな視点や仕掛けが得られつつあるように感じています。

本稿では、3観点の中でも、個人的にその捉えの難しさを感じている「主体的に学習に取り組む態度」の観点に話題を絞り、中学での実践をご報告します。中学での取り組みを高校の先生方に触れていただき、高校での実践を考えていただくきっかけになれば幸いです。

### 2. 教師に求められていること

「主体的に学習に取り組む態度」の評価について、『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料(中学校外国語)(国立教育政策研究所、2020)では、「基本的には『思考・判断・表現』と一体的に評価する」(p. 80)とし、その評価規準は『『思考・判断・表現』の評価規準と対の形』(同、p. 79)で、「思考・判断・表現」では「～している」、**「主体的に学習に取り組む態度」**では「～しようとしている」という語尾になっています。

具体的な評価の進め方について、高等学校の『『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料(高等学校外国語)』(国立教育政策研究所、2021)では、「『思考・判断・表現』の評価と一体的にパフォーマンステスト等で行う評価」(p. 85)と、「生徒が自己の学習を調整しようとする状況(自己調整)の観察に基づく評価」(同、p. 88)の2つの方法が示され、「年間を通して」(同、p. 85)、各生徒の「粘り強い取り組みを行おうとする側面」と「自らの学習を調整しようとする側面」の2つの観点から評価することを求めています。つまり評価を行う前提として、それぞれの生徒の「(粘り強く)～しようとしている」姿を適切に見取る必要が私たち教師に求められている、ということになります。

しかし、「(私の)授業中では生徒は〇〇すべきだ」といった教師の持つ授業の考え方や信念(指導観)は人それぞれで、ある生徒の「～しようとしている」姿の見取りは、教師によって変わったりしないだろうか、と考えてしまいます。「主体的に学習に取り組む態度」の評価に関する理念や原則を理解できたとしても、その評価の難しさに悩みを抱く先生方は少なからずおられるのではないのでしょうか。

### 3. 経験を中心にした「振り返り」に着目

「主体的に学習に取り組む態度」の具体的な評価方法に関して、国立教育政策研究所(2019)等で「ノートやレポート等における記述」、「授業中の発言」、「教師による行動観察」、「児童生徒による自己評価や相互評価」等、様々な方法が紹介されています。中でも私は、①生徒が自身の学習状況を把握し分析ができること、②教師が生徒全員に関する情報を得ることができること、そして③生徒も教師も普通の授業で活用できること、の3条件を満たすと考えられる「振り返り」に着目し、現在まで実践を続けてきました。

振り返り・リフレクションの進め方については、数多くのモデルが提案されています。いずれも経験を中心とした継続的な循環モデルであるという特徴を持ち、例えば玉井(2019)は「経験を問いをもって捉え」、記述し、分析し、「問題解決のためのアクションに代わって『理解』を目指すモデル」(p.58)を提案しています。経験の記述が重視され、それぞれの段階を丁寧に進めていくことが求められます。

#### 4. 実践

ここから具体的な実践をご紹介します。中学校新学習指導要領の全面实施を迎えた2021年4月からの取り組みで、私の担当学年(2021年度入学生)の生徒数は125名(3クラス)、週4時間の授業です。

##### 4.1 実践方法①「パフォーマンス課題を核にした振り返りのカリキュラム化」

国立教育政策研究所(2020)では、「自己調整」を図ることができるようにするための指導として、各単元の「学習開始時点」、「学習の途中段階」、「学習の終了及び学期末」の3つの時点の振り返りを提案しています(p.81)。これに対して亘理(2020)は「具体的なコミュニケーション活動・パフォーマンス課題との対応で目標立案や振り返りを行う」必要性を指摘しています(p.31)。

これらの指摘を参考に、中学校新課程の開始に先立ち、「主体的に学習に取り組む態度」の見取りと評価を目的に、振り返りをカリキュラムに組み込みました(図1)。

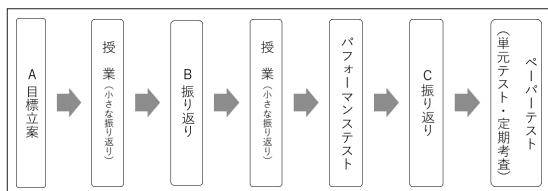


図1 各単元「振り返り」カリキュラムのイメージ

単元毎にパフォーマンス課題を設定し(4.2参照)、単元最初の授業でその単元の最後に行われるパフォーマンス課題を生徒に示した後、すぐにその場で全く同じ課題、あるいは同様の課題に取り組ませます。これは、単元最初には達成できない(少し難しい課題)を与え、「思っていたよりできた/できな

かった」という経験を経ることで、生徒個人のゴールができるのではと考えるためです。

その後、単元開始時(A)、途中(B)、終了時(C)の3時点で「大きな振り返り」が、各授業で「小さな振り返り」が行われます(具体的な振り返りの進め方は4.3を参照)。

大きな振り返りとして、A・B・C各時点で、「大きな振り返り用シートの記入・回収」→「評価+教師コメント(直接的なコメントを付すもありますが、記述に線を引き注意を向けるなど、間接的指導による自覚化を中心としています)」→「PDF化して保存」→「原本返却・学級で共有」→「振り返り専用ファイルに綴じさせポートフォリオ化」を行います。文章表現が苦手な生徒には個別に声をかけて一緒に振り返りをしたり、ペアやグループで助け合いながら、振り返りの時間を確保することもあります。

大きな振り返りを3回も行う理由については、(A)単元開始時と(C)終了時の「二時点のみでは、目標設定行為がたとえ『主体的』でも、求められる活動・課題と関連性を持たない目標をはい回る可能性」があり、(B)途中と(C)終了時の「二時点のみでは、教師に与えられた観点で振り返るだけになりかねず、『主体的に…取り組む』を満たさない」(亘理, 2020, p.31)との指摘に基づいています。

一方、各授業の小さな振り返りに関しては、個人内評価(個人の中でどう変わっているかの見取り)に用いるため、小さな振り返り用シートの記入時に机間巡視で確認、単元終了後にシートを回収し、PDF化した上で返却します。

このように、生徒のパフォーマンスと、そこに至るまでの振り返りの姿を見取りながら「主体的に学習に取り組む態度」の形成的な評価の資料とします。

##### 4.2 実践方法②「パフォーマンス課題の設定」

「『思考・判断・表現』の評価と一体的にパフォーマンステスト等で行う評価」について、本実践では教科書の各レッスンで扱われている言語材料や題材、あるいはコミュニケーション能力の育成を目的とした帯活動で扱う内容に対応したパフォーマンス課題を設定しています(表1)。

表1 パフォーマンス課題一覧(2021年～2022年)

[2021年度中学1年生]	[2022年度中学2年生]
Lesson 1 先生への30秒英語自己紹介	Lesson 1 ALTの先生におすすめの本の紹介(50秒)+先生からの質問への応答
Lesson 2 先生からの質問への応答	Lesson 2 「10年後の私」スピーチ+友達のスピーチへの感想
Lesson 3 Show & Tell 「30秒私の町紹介」+質問への応答	Lesson 3 身の回りの問題説明+解決プロジェクト紹介
Lesson 4 教室の前で30秒他己紹介+先生から質問への応答	Lesson 4 リテリング+絵の人物へ何をしてあげたいかを説明+学校行事の思い出
Lesson 5 教師が述べたことに関連した質問をその場で行う	Lesson 5 実際にイギリスの中学生へ自分の住んでいる町を他の町と比較して紹介
Lesson 6 実際にイギリスの中学生へ日本紹介文あるいは学校紹介文を書く	Lesson 6 中国以外の国や地域で飲まれているお茶について班で調べたものをクラスに口頭発表する(グループ発表)
Lesson 7 ALTの先生と1分間チャット	Lesson 7 ・ALTの先生と1分間チャット ・日本の伝統(舞台)芸術について班で調べたものをクラスに口頭発表する(グループ発表)
Lesson 8 ALTの先生に1分間で多くの動物を英語で説明	

瀧沢(2021)は、「思考・判断・表現」と「主体的に学習に取り組む態度」の一体的評価に関し、「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準作成のポイントとして「外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている状況を評価する」(国立教育政策研究所, 2020, p.30)とあることから、「『主体的に学習に取り組む態度』は、その観点には独自の目的があると考え、別物として評価するのがよい」(p.38)と述べています。

例えば中学2年生2月に実施した「話すこと(発表)」のパフォーマンステスト「日本の伝統(舞台)芸術について班で調べたものをクラスに口頭発表する」では、「主体的に学習に取り組む態度」の評価項目として、①資料を適切に提示している、②聞き

手を理解し、確認しながら行っている、③適切な声量で発表している、④アイコンタクトがとれている、の4項目を設定し、4個に○でa、2～3個に○でb、1個以下でcとして評価を行いました(同, p.73を参考)。

### 4.3 実践方法③「振り返りシートと振り返り評価」

「生徒が自己の学習を調整しようとする状況(自己調整)の観察に基づく評価」では、生徒の学びの足跡を残す工夫が必要となります。その方法の1つが振り返りシートです。

#### 4.3.1 振り返りシート

3節で紹介した玉井(2019)のリフレクションモデルを参考に、大きな振り返りでは経験の「記述」・「分析」、そして「見通し」を柱に、小さな振り返りでは「分析」に焦点を当てたシートを作成しました。一般的な振り返りの視点として、中学校学習指導要領(外国語編)では「言語面・内容面で自ら学習のまとめと振り返りを行う」(p.13)と示されていますが、本実践では、生徒自身の学習経験の捉えを目的とするため、言語面・内容面の2点に固定せず、生徒自身の視点から振り返りを促すようにしています。

#### (1) 大きな振り返り用シート

図2から図4は実際に使用しているシートです。

図2 単元開始時用

My English Portfolio  
Lesson 1-2 Goal Setting

① Lesson 1 パフォーマンステスト (実施日 月 日) と評価観点を確認できる。  
② ①に向け、今後の学習について目標を立てることができる。

①【パフォーマンス課題】スピーキングテスト (1 分間)

②【評価観点】25 観点

観点	評価基準	達成度
1) 発音	発音の正確さ	0
2) 文法	文法の正確さ	0
3) 語彙	語彙の豊富さ	0
4) 聴解	聴解の正確さ	0
5) 読解	読解の正確さ	0
6) 書写	書写の正確さ	0
7) 発話	発話の流暢さ	0
8) 聴取	聴取の正確さ	0
9) 読取	読取の正確さ	0
10) 書取	書取の正確さ	0
11) 発話	発話の流暢さ	0
12) 聴取	聴取の正確さ	0
13) 読取	読取の正確さ	0
14) 書取	書取の正確さ	0
15) 発話	発話の流暢さ	0
16) 聴取	聴取の正確さ	0
17) 読取	読取の正確さ	0
18) 書取	書取の正確さ	0
19) 発話	発話の流暢さ	0
20) 聴取	聴取の正確さ	0
21) 読取	読取の正確さ	0
22) 書取	書取の正確さ	0
23) 発話	発話の流暢さ	0
24) 聴取	聴取の正確さ	0
25) 読取	読取の正確さ	0

③【備考】①②は自分で目標を立て、③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿

出席番号 15-42(41) → 1-14

① 進捗率を記入してください。進捗率が高いほど、その単元の学習がすすんでいることを示します。進捗率を記入する際は、進捗率の欄に記入してください。

② ファイル名を記入して、印刷可能なシート、By Break を印刷してください。

③ 単元終了の「大きな目標」を設定し、「実際の達成率」を記入してください。達成率の欄に記入してください。

④ ファイル名を記入して、印刷可能なシート、By Break を印刷してください。

⑤ 単元終了の「大きな目標」を設定し、「実際の達成率」を記入してください。達成率の欄に記入してください。

図3 単元途中用(両面印刷)

My English Portfolio  
Lesson 1-3 Reflection

① 単元終了の「大きな目標」を設定し、「実際の達成率」を記入してください。達成率の欄に記入してください。

② ファイル名を記入して、印刷可能なシート、By Break を印刷してください。

③ 単元終了の「大きな目標」を設定し、「実際の達成率」を記入してください。達成率の欄に記入してください。

図4 単元終了時用

単元開始時シート(図2)では、①初めてパフォーマンス課題に挑戦した今の気持ちの「記述」、②今の自分の課題の「分析」、③この単元での学習の「見通しの設定」が課されます。

単元途中用シート(図3)では、はじめにパフォーマンステスト評価観点とルーブリックが示され、口頭でA・B基準のベンチマークを共有します。その後、①評価観点を知った今の気持ちの「記述」、②現在までの自分の勉強の評価と検証(「分析」)、③単元後半の学習への「見通しの設定」が課されます。

そして単元終了時シート(図4)では、①パフォーマンステストを終えた今の気持ちの「記述」、②これまでの勉強の評価と検証(「分析」)、③今の課題と今後の学習の「見通しの設定」が課されます。

教師はこれらのシートを見比べることで、単元開始時・途中・終了時のそれぞれ独立した振り返りの良し悪しではなく、単元のまとまりの中で、学びに対する生徒の意識の変容に注目できます。

(2) 小さな振り返り用シート

個人内評価の視点を採り入れたもので、毎回の授業で使用します。授業で示された「パフォーマンス課題達成レベル100」に対して、今日時点でのコメントと達成度のグラフ化を課しています(図5)。教師は各生徒の学びのプロセスや意識の変容を、視覚的かつ簡易に見取ることができ、学習支援のタイミングを得ることができます。なお、このシートを使った実践から、自己意識の変容(達成度の高まりや停滞など)と英語力の伸びとの関係性が比較的高い傾向を示すことを確認しています(増見, 2022)。

L2 Performance : Pronunciation Seminar 4 Speech Session

① 単元終了の「大きな目標」を設定し、「実際の達成率」を記入してください。達成率の欄に記入してください。

② ファイル名を記入して、印刷可能なシート、By Break を印刷してください。

③ 単元終了の「大きな目標」を設定し、「実際の達成率」を記入してください。達成率の欄に記入してください。

図5 小さな振り返り用シート

これら各シートの違いが一目で分かるように、単元開始時用は青色、途中用は緑色、終了時用は桃色、そして小さな振り返り用は黄色と、異なる色の用紙

(A4版)に印刷しています。

**(3) 生徒に素直な気持ちを記述してもらうために**

生徒の学びを見取る上では、生徒が自分の学びとどう向き合っているかが見えなければならず、それぞれの生徒の声の言語化が欠かせません。振り返りの記述は「主体的体験を相対化」(玉井, 2019, p.59)する大事なステップで、生徒達に素直な気持ちをいかに記述してもらうかは大きな課題です。

生徒の声の出し方については「教師の定めた項目ごとにチェックを行う方法」や「はい/いいえ」等の問いかけだけでは不十分だと考えます。具体的な「その瞬間の学びに関する問いかけ」をテーマに、上記振り返りシートの開発を試みてきました。

また単に「レポートを書きなさい」と伝えるより、例えば「自分の好きなしゃべり方(話し言葉)でOK. かしこまった日本語でなくていいですよ」、「失敗してばかりで面白くなかった、とネガティブなことを書いても私(=先生)の勉強になるからいいよ」などと、生徒達に伝えるようにしています。「自分の言葉でどうぞ」というのは大切かと思えます。

**4.3.2 振り返りの見取りと評価**

表2は、大きな振り返りの内容から評価の視点を定めた上で、「主体的に学習に取り組む態度」の2つの評価観点と関連付けたものです。そして表3は、表2に基づいて設定した振り返り評価基準です。

表2 振り返り評価の視点と「主体的に学習に取り組む態度」の関係

振り返り評価の視点	主体的に学習に取り組む態度
目標に向けた行動を継続的に行いつつ、学びの経験や問いを自覚的に捉え、記述しようとしている	粘り強い取り組みを行おうとする側面
目標に向けた行動の分析に基づき、新たな目標を立案し、次に取るべき行動を考えようとしている	自らの学習を調整しようとする側面

表3 振り返り評価基準

評価	粘り強い取り組みを行おうとする側面	自らの学習を調整しようとする側面
①「目標に向けた継続的な行動」及び②「学びの経験や問いを自覚的に捉える姿」について	③「目標に向けた行動の分析」及び④「新たな目標・今後の具体的な行動の立案」について	

a	①・②ともに十分に見取ることができる	③・④ともに十分に見取ることができる
b	①あるいは②を見取ることができる	③・④ともに見取ることができる
c	①・②ともに見取ることができない	③あるいは④を見取ることができない

単元開始・途中・終了時の大きな振り返りでは、2つの観点について、それぞれ a から c の評価を行います。その後2つの評価を合算し(A・B・Cの振り返り評価の決定)(表4)、「主体的に学習に取り組む態度」の評価材料の1つとします。なお、合算では国立教育政策研究所(2019)の「『主体的に学習に取り組む態度』の評価のイメージ」(p.9)を参考にしています(図6)。

表4 振り返り評価の決定

粘り強さ	学習調整	振り返り評価
a	a	A 評価
a	b	B 評価
a	c	C 評価
b	a	A 評価
b	b	B 評価
b	c	C 評価
c	a	C 評価
c	b	C 評価
c	c	C 評価

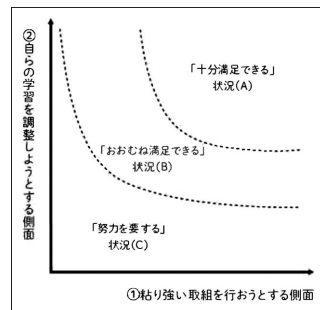


図6 「主体的に学習に取り組む態度」評価イメージ

**5. 実践を経て**

**5.1 生徒達の多彩な振り返り**

2年間の取り組みを経て、言語面・内容面に関する記述以外にも「その場での英語対応力が足りない」、「学習の計画性(に課題)」、「緊張や恥ずかしさをなくしたい」、「次は〇〇の(勉強)方法をやってみようと思う」といった、学びへの向き合い方に関する



る様々な視点が生徒の中に現れてきました(増見, 2021)。生徒達の多彩な振り返りの視点は、個々の生徒の「～しようとする」姿の見取りを行う上で、私にとって貴重な材料となっています。また、生徒の言葉は、授業者の私のリフレクションも強く促し、「〇〇だったんだ、気づかなかった…」とか「□□した方がいいだろうか…」などと、私自身の授業実践をより深く捉え直すきっかけを与えてくれています。

振り返りシートの蓄積は、生徒も保護者も納得できるような、評価のエビデンスになると思います。実際、生徒学習相談や保護者懇談の場で PDF 化したシートを活用することもあります。

## 5.2 教師として「主体的に学習に取り組む態度」の見取りに大切なこと

2節で、「ある生徒の『～しようとしている』姿の見取りは、教師によって変わったりしないだろうか」と述べました。私は「～しようとしている」姿の見取りに際し、「この生徒に対して今こう思うけど、他の理解はないだろうか?」と、自身の指導観の妥当性を問い続ける姿勢が大切だと思っています。自身の授業実践が、普段意識していない部分からいかに生み出されているかを問う姿勢です。実際、指導観を問い続けることは、とても苦しいものであることは、私自身痛感しています。しかし生徒に向き合う上で忘れてはいけないことだと肝に銘じるようにしています。

## 5.3 課題

これらの取り組みは、どうしても時間的な負担が避けられません。私の場合、シートの確認に1人につき少なくとも30秒位(1クラス20分位)かかります。しかし「主体的に学習に取り組む態度」の見取りと評価を丁寧に行うのであれば、生徒個々の学びのプロセスを理解する時間がどうしても必要です。「～しようとしている」姿の見取りに、普段の授業で時間をかけず、さっと迷わずチェックできるような妥当性・信頼性の高い方法を求めるのは課題だと感じています。

## 6. さいごに

高校では観点別評価2年目を迎えました。観点別のテスト作成、普段の生徒達の様子記録化など、

今までになかったことを「やらされる」のも確かです。「他に忙しいことも多いのにやられてられない!」と思うのも自然だと思います。

しかし(私がそうであったように)「カンテンベツの世界」に不安な中、「知識・技能を問うためにはどんな問題がいいか」、「パフォーマンステストで思考・判断・表現を問うにはどんな課題を設定したらいいか」、そして「生徒の主体性をどう見取ったらいいか」と、あれこれ考えを巡らしながら実践を続けることで新たな空気を感じることは確かです。小学校、中学校と観点別の世界に慣れた生徒達は、授業やテストのねらいが明確に定まると、先生を応援し、一緒にいい授業を創ってくれると思います。

今後、中学と高校の連携が更に深められるよう、本稿がその一助となれば幸いです。

## 引用文献

- 瀧沢広人(2021). 『事例でわかる! 中学英語 パフォーマンステスト&学習評価』学陽書房。
- 玉井健・渡辺敦子・浅岡千利世(2019). 『リフレクティブ・プラクティス入門』ひつじ書房。
- 増見敦(2021). 『「主体的に学習に取り組む態度」の見取りと評価—英語科言語活動の『振り返り』指導の経過と課題—』『研究紀要 神戸大学附属中等論集』, 6, 21-26
- 増見敦(2022). 「英語言語活動における『振り返らせ方』の検討—振り返りの内容・英語力の伸び・自己意識の変容の関係に着目して—」『日本教科教育学会第48回全国大会論文集』, 48, 59-60
- 文部科学省(2017). 『中学校学習指導要領(外国語編)』
- 文部科学省国立教育政策研究所(2019). 『学習評価の在り方ハンドブック(小・中学校編, 高等学校編)』
- 文部科学省国立教育政策研究所(2020). 『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料(中学校外国語)』
- 文部科学省国立教育政策研究所(2021). 『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料(高等学校外国語)』
- 巨理陽一(2020). 「主体的に学習評価に取り組む態度を問う」『教育』, 896, 28-35.

(神戸大学附属中等教育学校 教諭)